

# 広瀬鎌二

広瀬鎌二建築展 SH+ 第5回 木造へ 2022年 生誕100年記念

建築設計図(原図)+ 建築写真(三沢博昭、岡本茂男など)+ 動画(3DCG/点群) 肆木の家、勝山館跡ガイド施設など

2022.11.12(土)▶17(木) 9:00~19:30  
17日は、17:30まで

会場: 建築会館ギャラリー (入場無料)

東京都港区芝5丁目26番20号

アクセス: JR田町駅、都営地下鉄三田駅 徒歩3分

## SH+05

God is in the details

広瀬鎌二建築展 SH+ 第4回のVR展覧会 開催中

<https://my.matterport.com/show/?m=sHX6ss9CfTr>



主催: 広瀬鎌二アーカイブズ研究会

[hirose.archive@gmail.com](mailto:hirose.archive@gmail.com)

# 鎌二

# 二

## 広瀬鎌二建築展 SH + 第5回 木造へ

広瀬鎌二建築展SH+第5回は、1970年代から1990年代にかけて情熱を傾けた「木造への新たな挑戦」をテーマに展示する。

1972年「ローマクラブ」のレポート「成長の限界」の中での「宇宙船地球号」という言葉が象徴する資源問題や環境問題が、世界で大きなテーマとなっていたが、広瀬も環境への負荷の低減に関心をもち始める。また、ヨーロッパ視察旅行で、日本の豊かな歴史とその建築文化を指摘され、日本の伝統に真摯に向き合うことの重要性を再認識していった。建築をさまざまな要素に分解して理解しそれを組み直すというそれまでの手法をもって著したのが、『伝統のディテール』であった。

広瀬の建築家としてのデビュー作品は、木造住宅の「西京風の家」であったが、木造建築は大工が勝手に自己流で建ててしまうことに幻滅した。このため、自身で意匠・構造・工法のすべてを考え、創造することのできるものとして鉄を選び、挑戦していったのがSHシリーズである。しかしそのSHシリーズに限界を感じ、新たな木への挑戦が始まったのが、自邸の「肆木しもくの家」である。この住宅は、広瀬と学生が自力で建てたものである。部材図、継手・仕口図を書くことから始まり、一部に工務店の協力を得たものの、素人が木造建築をすべて施工したのである。かつて幻滅した木造への徹底したリベンジであったのだろう。

200年以上の耐久性をもつ材料は、木以外には青銅、鋳鉄、石、土、焼き物、和紙ぐらいであるという信念のもとに、その後は、貫構造など伝統技術・技能をベースに据えた作品を新たに世に問うた。現在、資源や環境問題が再び大きく叫ばれ、伝統技術の継承も黄信号がとる中、広瀬のめざした木造建築が、SHシリーズとは違う価値をもって評価されることを願うものである。

広瀬鎌二アーカイブズ研究会 代表 矢野和之



肆木の家 撮影：広瀬鎌二



勝山館跡ガイダンス施設 撮影：森川博史



山下邸 茶室 撮影：三沢博昭



西都原古代生活体験館 撮影：三沢博昭

**東京都市大学同窓会 [校友会] 10周年記念事業タイアップ企画 申請中**

後援：一般社団法人日本イコモス国内委員会 一般社団法人 DOCOMOMO Japan 公益社団法人日本建築家協会  
東京都市大学 東京都市大学建築学科教室 東京都市大学同窓会 [校友会] 東京都市大学建築学科同窓会 [如学会]

広瀬鎌二 (1922年 - 2012年) 略歴

1942年 旧制武蔵高等工科学校建築科卒業、井上工業入社 1944年 応召により赤羽工兵隊入隊 除隊後、海軍施設部山地地方事務所入所 1945年 終戦、井上工業に復帰  
1946年 東京木工設計部入社 1950年 村田政真建築設計事務所入社 1951年 広瀬鎌二建築技術研究所設立 1962年 東京大学工学博士 学位論文「建築部品の性能と精度に与える条件」  
1966年 武蔵工業大学 (現・東京都市大学) 教授 1993年 武蔵工業大学を定年退職、同大学名誉教授、広瀬研究室を設立 2012年 2月7日 逝去 89歳